

宮島や其の他の面々が、見舞の菓子折を持つて引きとりに来て、署長に追ひ還されては立腹して歸つて行く。

黒瀬春吉から、電話が掛かつて來たと巡査が言つて來る。

「君は辻潤と云ふ人を知つてゐるか」と巡査が尋ねる。

「君の姉さんと迎ひに來てゐるから、おとなしく歸りたまへ」

警部が署長かゞ來て言つた。

突然の喜びは、病める精神には有害だ。

錠前を外して、ガタリと扉をあけて、巡査が僕を暗い所から引き出す。

幾つもしきられてある留置場の、僕は便所の近くの一歩ハシに居たのだ。

四五年振に遇ふ姉の姿が、チラリ目に這入つた。

土間になつた廊下の入り口に立つてゐる。

「オイ、辻潤の馬鹿野郎、キサマが最少し愛してやれば、キサマの親父も氣が狂つては死ななかつたんだ。大悟した俺の聲を聞いてみる。